

(一社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 43 回 LLW埋設後管理分科会 議事録

1. 日時 2022 年 7 月 25 日 (月) 13:30~14:30
2. 場所 Webex による WEB 会議
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
(出席委員) 河西 (主査), 山本 (正) (副主査), 梅原 (幹事), 山本 (修), 関口,
白石, 千々松, 後藤, 小峯, 長峰, 三木 (11 名)
(代理出席委員) 高崎 (中辻代理), 鈴木 (平井代理), 辻家 (竹田代理) (3 名)
(出席常時参加者) 山岡, 斎藤, 山田 (3 名)
(欠席委員) 徳永, 宮脇, 仲田, 久田 (4 名)
(欠席常時参加者) 熊谷, 東原 (2 名)

4. 配布資料

F14SC43-0	議事次第
F14SC43-01	人事について
F14SC43-02	第 42 回埋設後管理分科会議事録 (案)
F14SC43-03	改定概要
F14SC43-04	関係規則等の改正前後比較表
F14SC43-05	関係規則等の改正に伴う改定前後比較表
F14SC43-06	埋設後管理標準本体改定案
F14SC43-参考	専門部会/標準委員会概要説明資料

5. 議事及び確認事項

(1)出席者/資料確認

梅原幹事より, 委員総数 18 名中代理を含め 14 名の出席があり, 分科会の成立要件を満たしている旨の報告があった。続いて配布資料の確認が行われた。

(2)人事について

梅原幹事より, 資料-1 を用いて, 人事の説明があった。委員人事 (選任: 辻家委員, 高崎委員, 鈴木委員, 大石委員) は, 承認された。また, 委員の退任 (竹田委員, 中辻委員, 平井委員) 及び熊谷常時参加者の登録解除が報告された。

(3)前回議事録の確認

梅原幹事より, 資料-2 を用いて, 前回 (第 42 回) 議事録(案)の確認が行われ, コメントは無く正式議事録とすることとなった。

(4)埋設後管理標準の改定

千々松委員より資料 3～6 及び参考資料を用いて説明があり、以下の質疑が行われた。

- ・参考資料は標準委員会のフォーマットに基づいているのか。(河西主査)
 - 標準委員会のフォーマットに基づいている。また、安全評価標準及び施設検査標準も専門部会で報告を予定しているため、それらとの整合を図り作成している。(千々松委員)
- ・資料-3 で用語の定義を統一しているが、安全評価や施設検査の標準においても、用語を修正しているということによいか。(河西主査)
 - 実際の資料を確認はしていないが、資料中の“調整案”の用語に、各標準で修正しているはずである。(千々松委員)
- ・資料-3 の p.16 で、“坑水”という用語があるが、この用語は何か。“鉱水”が正しいのではないか。坑道からの湧水ということだと思うが、この用語で正しいのか。(小峯委員)
 - 図 E.8 の文献から引用した用語である。(関口委員)
 - 念のため、確認して欲しい。(河西主査)
 - 確認するが、“坑内湧水”といった表現の方が適切にも考えられるため、用語の見直しも含め再確認する。(千々松委員)
- ・本分科会以後でも、追加でコメント等あれば連絡いただきたい。(河西主査)
- ・標準案に対して分科会として決議の形をとらなくてよいのか。(山本副主査)
 - 今日の資料を専門部会へ報告することに対して決議をとるため、挙手をお願いします。(河西主査)
 - 小峯委員からの指摘についてはどのように扱うか。(梅原幹事)
 - これに関しては軽微な変更にあたるので決議後であっても問題ないとする。(山本副主査)
 - 出典を確認したところ、出典となる文献でも“坑水”という言葉になっているが、“坑内湧水”と変更した方がよいか。(千々松委員)
 - 用語を変えて意味が変わってしまう恐れがあるので、出典と同じ用語の方がよいのではないか。(山本副主査)
 - Web 上で確認したところ、“坑水”という言葉は用語としてあるようだ。(梅原幹事)
 - 技術用語として“坑水”という言葉があるとのことなので、このままでも問題ない。(小峯委員)
 - “坑水”から変更しないままとする。(千々松委員)
- ・改めて、今日の資料を専門部会へ報告することに対して決議をとるため、挙手をお願いします。(河西主査)
 - ⇒出席委員全員の承認が得られたため、了承された。
- ・今後の予定
- ・8月3日に原子燃料サイクル専門部会で、人事案件として本日の分科会で承認された委員4名の人事が承認される予定。また、4名のうち2名の方は委嘱状の送付を希望されているため、専門部会後に委嘱状の手続きを行う。(梅原幹事)

- ・ 8月3日の原子燃料サイクル専門部会で本日の資料を説明し、問題無ければ本報告の書面投票へと進む予定。9月中旬ごろまでの書面投票となり、書面投票結果を受けての対応について、分科会を開催される予定と想定している。（梅原幹事）

以上